

「大学入学共通テスト」について

令和3年から「大学入試センター試験」は「大学入学共通テスト」に変わります

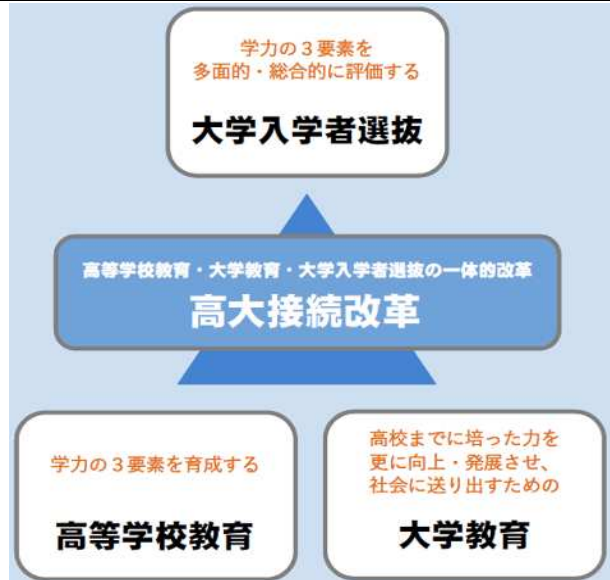
高校教育課

なぜ「大学入学共通テスト」に変わるのか…「学力の3要素」の多面的・総合的な評価へ

グローバル化の進展や人工知能技術をはじめとする技術革新などに伴い、社会構造も急速に、かつ大きく変革しており、予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てることが必要です。

このためには、『学力の3要素』（1. 知識・技能の確実な習得，2. 知識・技能の確実な習得を基にした思考力・判断力・表現力，3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を育成・評価することが重要であり，義務教育段階から一貫した理念の下，「学力の3要素」を高校教育で確実に育成し，大学教育で更なる伸長を図るため，それをつなぐ大学入学者選抜においても，多面的・総合的に評価するという一体的な改革を進めていく必要があるからです。

「高大接続改革」に係る質問と回答(文部科学省HP)等による。
※アンダーラインは高校教育課，以下同じ。



大学入学共通テストの主な変更点について

- ① 国語・数学で記述式問題を導入
- ② 英語の4技能(読む・聞く・話す・書く)評価への転換(外部検定試験を活用)
※ 大学入試センターが認定した，資格・検定試験を，各大学の判断で活用(高3時・2回まで)

問題作成の基本的考え方等

- 知識の理解の質を問う問題や，思考力，判断力，表現力を発揮して解く問題を重視。
- 高等学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のメッセージ性も考慮する。
 - ・ 授業において生徒が学習する場面
 - ・ 社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面
 - ・ 資料やデータ等を基に考察する場面など，学習の過程を意識した問題の場面設定を重視。

範囲・内容

- ・ 高等学校学習指導要領に準拠。
- ・ 知識の理解や思考力等を新たな場面でも発揮できるかを問うため，教科書等で扱われていない資料等を扱う場合がある。

各教科における変更点

- ① 国語
 - ・ 近代以降の文章による記述式問題を80～120字程度の問題を含め小問3問出題。
 - ・ 異なる種類や分野の文章などを組み合わせた，複数の題材による問題の検討。
 - ・ 試験時間の20分延長(100分に変更)。
- ② 数学
 - ・ 問題の作成に当たっては，日常の事象や，数学のよさを実感できる題材，教科書等では扱われていない数学の定理等を既知の知識等を活用しながら導くことのできるような題材等を含めて検討する。
 - ・ 「数学I」『数学I・数学A』で，数式等を記述する小問3問作成。
 - ・ 試験時間の10分延長(70分に変更)。
- ③ 英語
 - ・ リーディングとリスニングは各100点。
 - ・ 発音，アクセント，語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。
 - ・ 英語の外部検定試験を活用し，「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を評価。
 - ・ 共通テストの英語試験は，2023年度までは継続して実施。